

PALTEK

(JASDAQ:7587)

**2015年12月期 第3四半期
決算説明資料**

2015.11.5 (木)

FY2015 Q3 Results Reporting

© 2015 PALTEK Corporation. All rights reserved.

アジェンダ

- ① 2015年12月期 第3四半期
業績結果**
- ② 2015年12月期 業績予想**
- ③ 事業の進捗状況**

1

2015年12月期 第3四半期 業績結果

連結業績結果(第3四半期累計期間)

(百万円)	2014年第3四半期		2015年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	17,423	100.0%	20,642	100.0%	3,219	18.5%
売上総利益	2,554	14.7%	3,081	14.9%	527	20.6%
販管費	1,955	11.2%	2,114	10.2%	158	8.1%
営業利益	599	3.4%	967	4.7%	368	61.5%
経常利益	573	3.3%	819	4.0%	246	43.0%
四半期純利益	332	1.9%	507	2.5%	175	52.7%
1株当たり四半期純利益	29.11円	—	45.89円	—	16.78円	

主な増減要因

- 売上高は、半導体事業が大幅に増加
- 売上総利益は、売上高の増加および仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が増加したため増加
- 販管費は、新規取引先拡大のため人員を増員したことにより増加

(百万円)	2014年第3四半期		2015年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	16,451	94.4%	19,507	94.5%	3,055	18.6%
デ ザ イ ン サ ー ビ ス	890	5.1%	1,016	4.9%	126	14.1%
そ の 他	81	0.5%	119	0.6%	37	45.7%
売 上 高 合 計	17,423	100.0%	20,642	100.0%	3,219	18.5%

主な増減要因

- 半導体事業は、主に産業機器向けを中心に新たに取引を開始したお客様の売上高が増加。
その他、医療機器、ブロードバンド向け通信機器向け等も増加

■ 売上総利益率の変動は、以下の2つが要因

- ドル円相場により変動する仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の増減が、2014年第3四半期では5百万円であったが、2015年第3四半期では385百万円となった

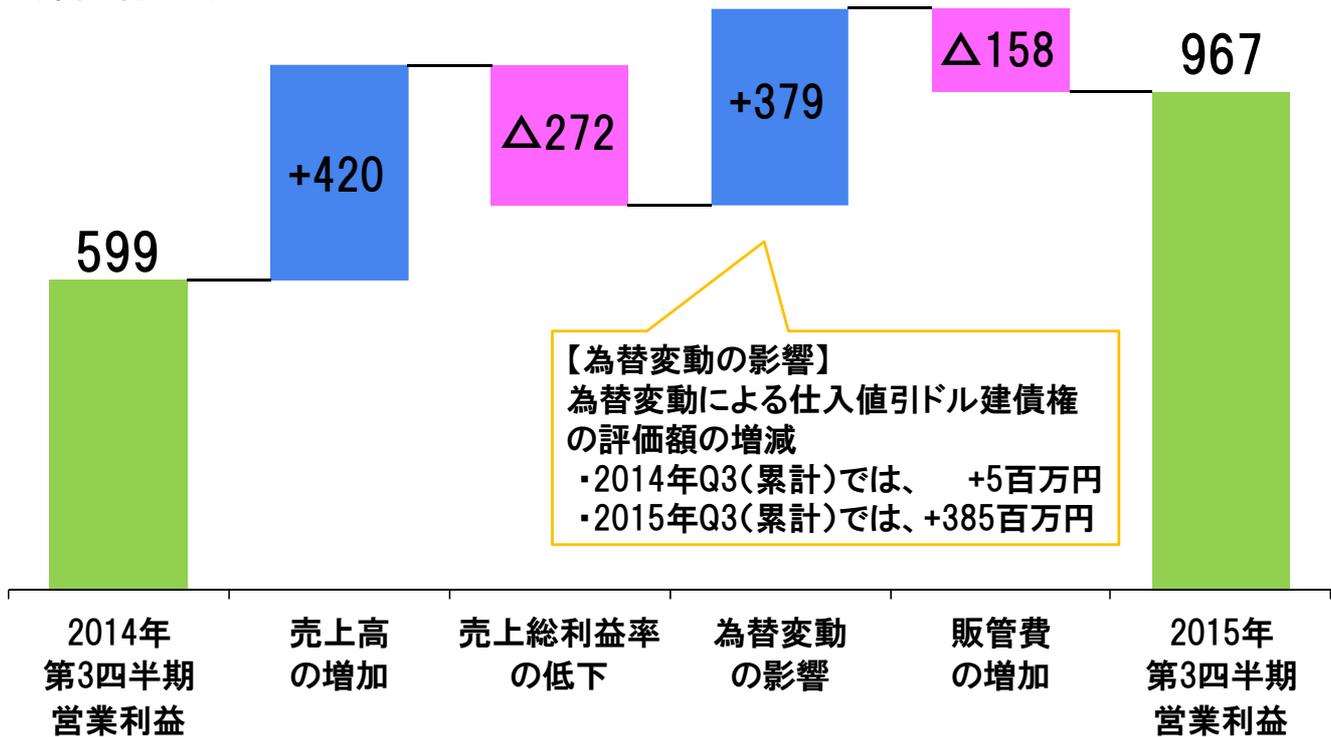
(※仕入値引ドル建債権の説明は、本資料の参考資料に記載)

(百万円)	2014年第3四半期		2015年第3四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売 上 総 利 益	2,554	14.7%	3,081	14.9%
(うち為替の影響額)	5	0.0%	385	1.9%
売 上 総 利 益 (為替の影響を排除)	2,549	14.6%	2,697	13.1%

- 半導体事業において、売上総利益率の低い案件の売上高が増加

営業利益の増減分析

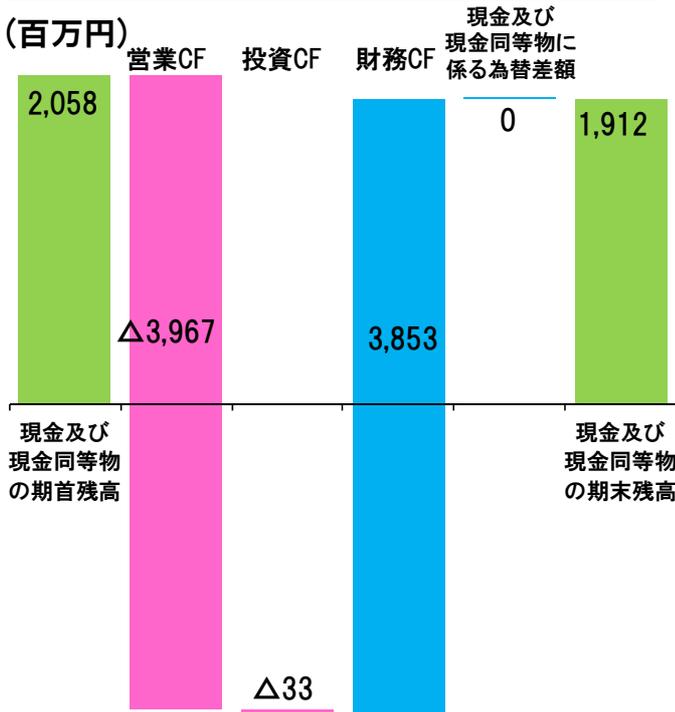
(単位:百万円)



連結貸借対照表の状況

		(百万円)	2014.12末	2015.9末	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金		2,058	1,912	△145	
	売上債権		4,496	5,874	1,378	売上高増加に伴い増加
	商品		3,139	4,015	876	今後の売上増に備え調達
	その他流動資産		1,765	3,628	1,862	主に未収入金が大幅に増加
	固定資産		577	552	△25	
資産合計			12,037	15,983	3,946	
負債純資産内訳	仕入債務		784	656	△128	
	短期借入金		780	5,030	4,250	仕入先への支払いに充当するため増額
	その他流動負債		1,398	1,129	△269	
	固定負債		325	290	△34	
	純資産		8,748	8,877	129	
負債・純資産合計			12,037	15,983	3,946	

2015年第3四半期のキャッシュフローの動き



(百万円)	2014年第3四半期	2015年第3四半期
現金及び現金同等物の期首残高	1,198	2,058
営業CF	△198	△3,967
投資CF	△36	△33
財務CF	1,086	3,853
現金及び現金同等物の期末残高	2,052	1,912

2015年第3四半期のキャッシュフローの動き

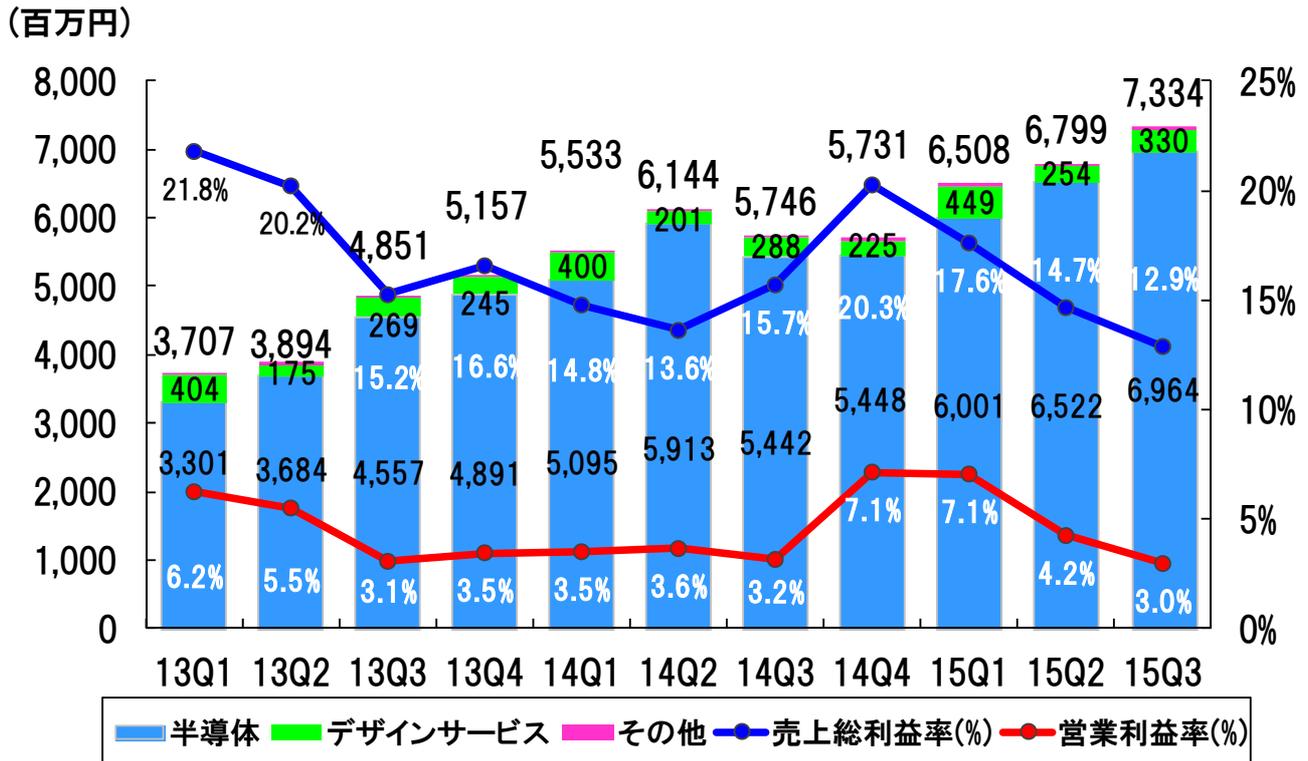
- 営業CF: 税金等調整前四半期純利益を計上した一方で、売上債権、たな卸資産および未収入金が大幅に増加したこと等により支出
- 投資CF: 有形固定資産を取得したこと等により支出
- 財務CF: 借入れの実施等により収入

財務内容変化の要因

- 新規顧客の増加に伴う売上高の拡大に対応するため仕入を増大。仕入債務の支払実行のため、借り入れを実施
(売上債権、商品、短期借入金が増加)
- 仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権を、四半期末に多額に保有することとなったため、未収入金が増加

財務内容変化への対応

- 2015年3月にコミットメントライン契約締結し、安定的な資金調達枠を確保
 - 目的 : 安定的な資金調達枠を確保し、財務構造の安定を図る
 - 契約形態 : シンジケーション方式によるコミットメントライン
 - 契約総額 : 100億円までの借り入れが可能
 - 契約期間 : 2015年3月25日から3年間

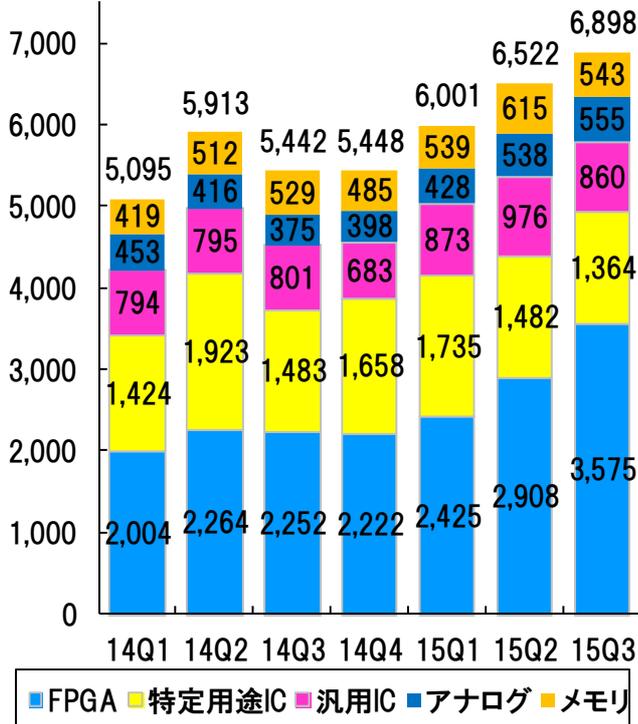


事業別の実績



半導体事業の状況（製品別）

(百万円)



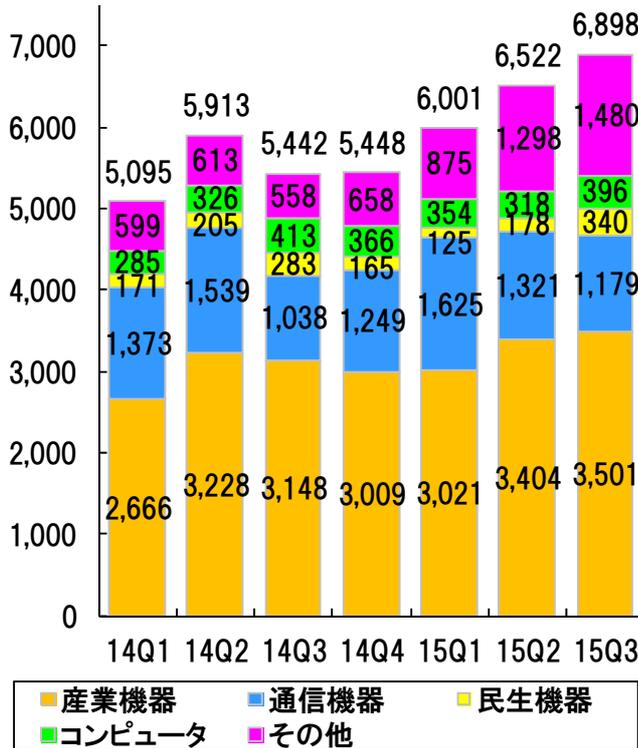
四半期業績の推移

- FPGA**
新たに取り取引を開始したお客様の売上が増加
- 特定用途IC**
ブロードバンド通信機器向けが減少
- 汎用IC**
オフィス機器向け等が減少
- アナログ**
医療機器、計測機器、産業機器向け等が増加
- メモリ**
2次代理店向け等が減少



半導体事業の状況（用途別）

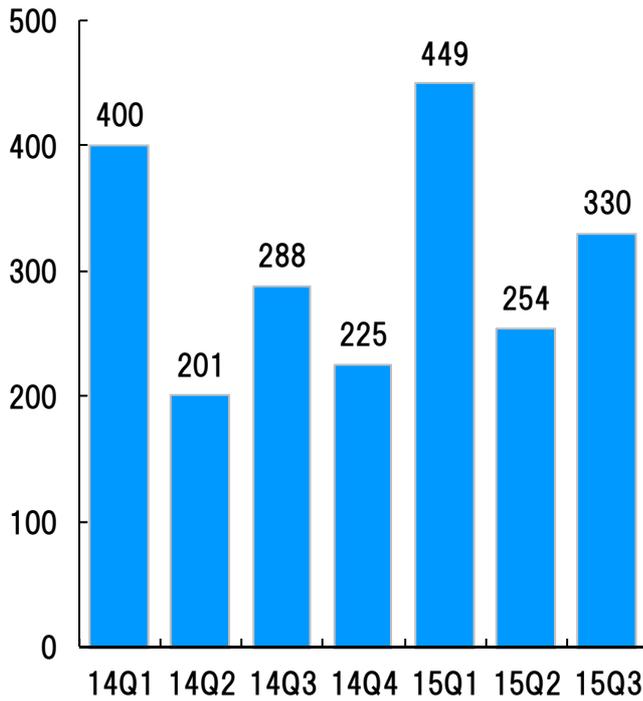
(百万円)



四半期業績の推移

- 産業機器**
医療機器、放送機器、計測機器等が増加
- 通信機器**
携帯電話基地局等の通信インフラ向けが減少

(百万円)



四半期業績の推移

- 無線通信機器、IoT関連機器向け設計受託が好調に推移
- デザインサービス事業においては、お客様(3月決算会社)の予算との連動性が高いため、第2四半期の売上高は第1四半期に比べ、減少する傾向

2

2015年12月期 業績予想

2015年12月期については、業績予想通りに推移

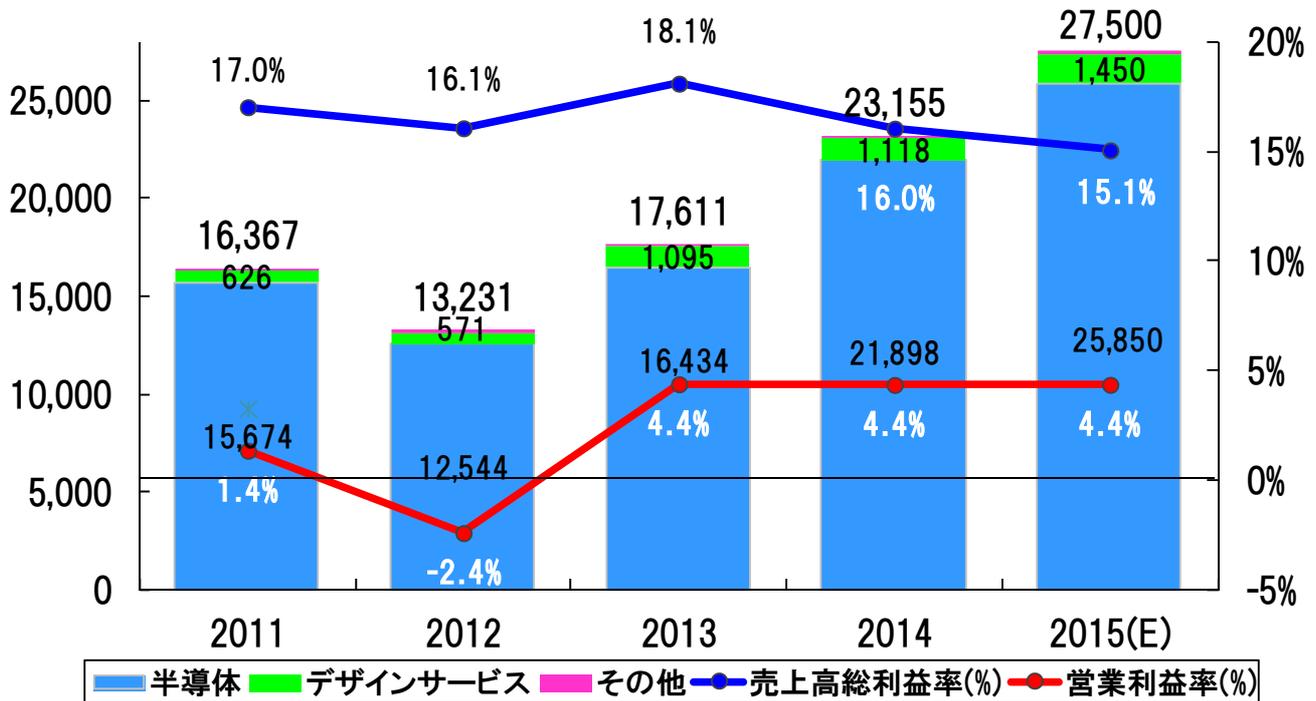
- 売上高について
 - FPGAビジネスにおいて、新たに取引を開始したお客様の売上が堅調に推移する見込み
- 営業利益について
 - 【売上総利益】下期において売上高は増加。その一方で、新たに取引を開始するお客様への売上総利益率は当初は低下すること。また、半導体事業において、競争激化のため売上総利益率が低下傾向にあるため、売上総利益率は低下する見込み
 - 【販管費】人員の増加により前期よりも増加
 - 【営業利益】売上総利益率は低下するものの、売上高の増加により、業績予想通りに推移する見込み
- 経常利益、当期純利益について
 - 現時点では、第3四半期(累計)で為替差損110百万円が発生しているため、業績予想を若干下回って推移する見込み

FY20

red.

(百万円)	2014年12月期 実績			2015年12月期 業績予想(8/5時点)			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	11,677	11,478	23,155	13,308	14,191	27,500	4,344	18.8%
売上総利益	1,653	2,059	3,713	2,141	1,998	4,140	426	11.5%
売上総利益率	14.2%	17.9%	16.0%	16.1%	14.1%	15.1%	—	—
販管費	1,235	1,469	2,704	1,394	1,545	2,940	235	8.7%
営業利益	418	590	1,008	747	452	1,200	191	19.0%
営業利益率	3.6%	5.1%	4.4%	5.6%	3.2%	4.4%	—	—
経常利益	389	663	1,052	713	431	1,145	92	8.8%
当期純利益	228	334	563	454	280	735	171	30.5%

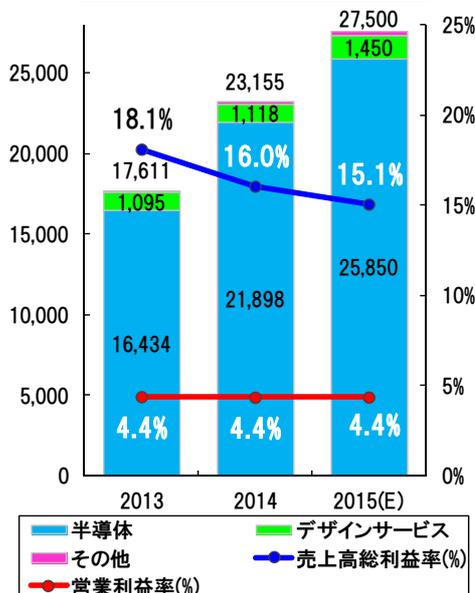
(百万円)



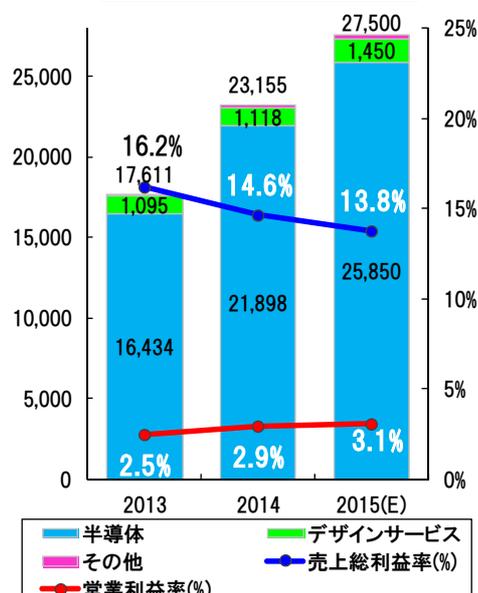
為替の影響を除いた場合の業績予想比較

- 2013年、2014年では、円安進行により仕入値引ドル建債権の評価額が増加し、原価を押し下げた。2015年第2四半期(累計)でも同債権の評価は増加
- この評価額の増加を含む為替の利益に与える影響を排除した場合、2015年12月期については実力値ベースでは増益

為替の影響を除かない場合



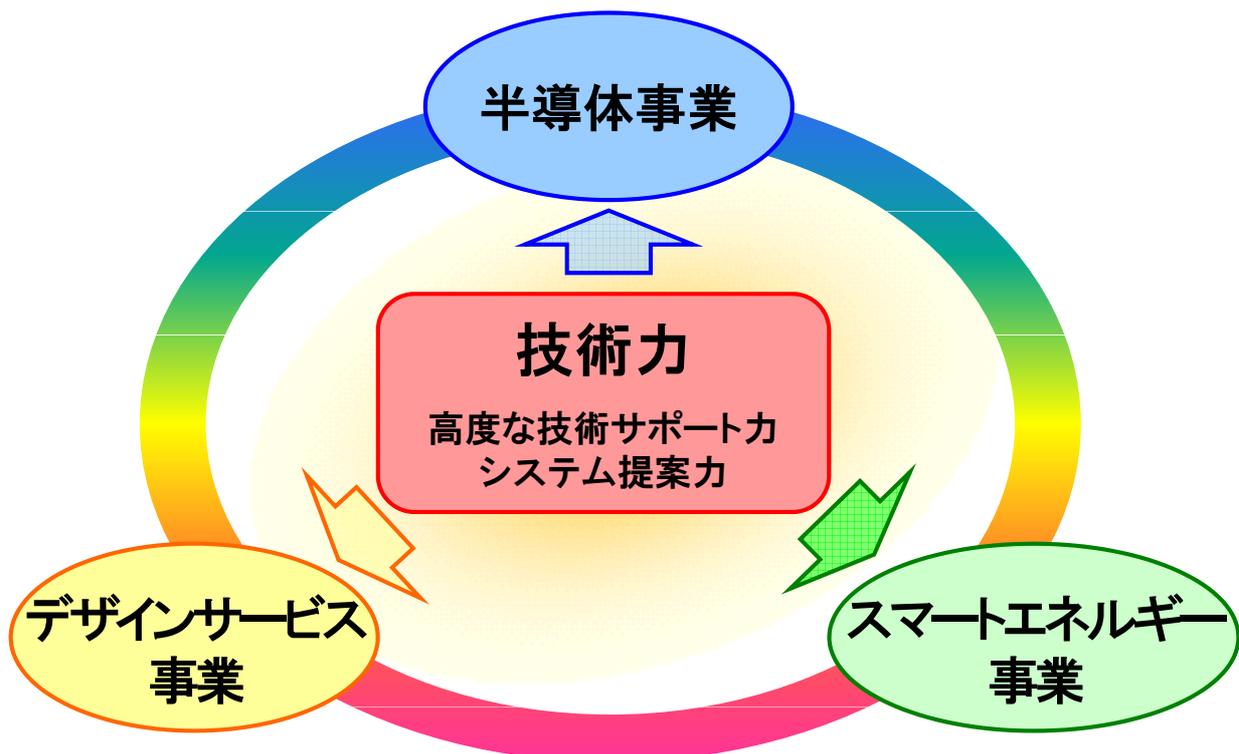
為替の影響を除いた場合



3

事業の進捗状況

PALTEKの事業分野



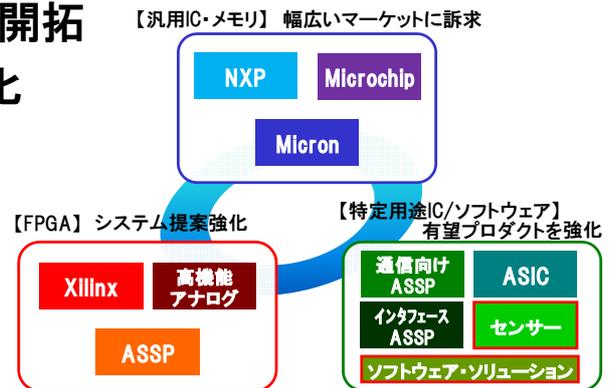
2014年12月期売上構成比

■ 事業の方向性

- 安定的に収益を確保する事業を目指す

■ 戦略

- 付加価値高い製品の取り扱い
- FPGA市場の更なる拡大
- センサー/ソフトウェア市場の開拓
- デマンド・クリエーションの強化
- 成長市場:通信、産業、医療、放送への注力
- 業務効率の向上



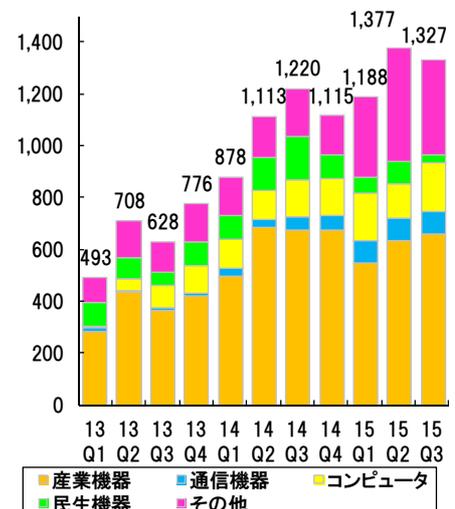
■ FPGA市場の更なる拡大

- 新規顧客との取引開始で売上拡大
 - 産業機器、車載機器、医療機器向けが増加

■ 第2の柱となる製品

- 産業機器、コンピュータ向けが堅調

第2の柱となる4製品の売上推移



2014年12月期売上構成比

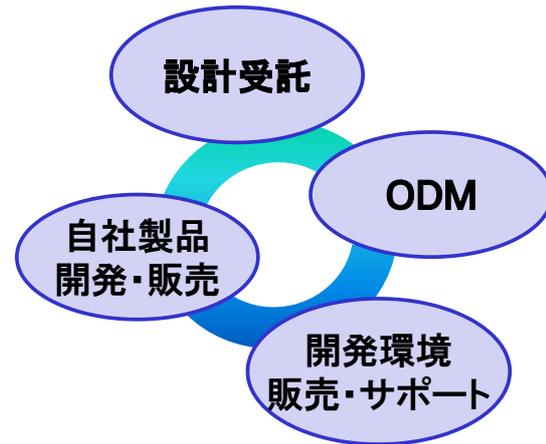
■ 事業の方向性

- 日本メーカーが得意とする医療、放送等の産業分野、通信分野の開発をサポートし、付加価値の高い製品・サービスを提供



■ 戦略

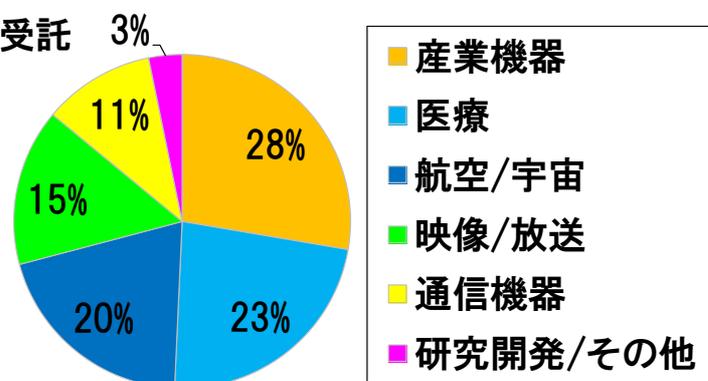
- 設計受託の強化
- ODMの更なる展開
- 自社製品開発・販売
- 開発環境販売・サポート
(ツール、評価ボードの販売等)



■ 産業機器、医療機器、航空/宇宙、映像/放送分野での設計受託・ODMが堅調

- 産業機器
 - IoT関連機器、ファクトリーオートメーションの設計受託
 - 監視カメラ向けコーデック装置の提供
- 医療
 - 次世代内視鏡の開発
 - MRI/CTスキャナ向けエンジンボードの提供
- 映像/放送
 - 8K画像合成装置の設計受託
- 通信
 - 無線通信機器の設計受託

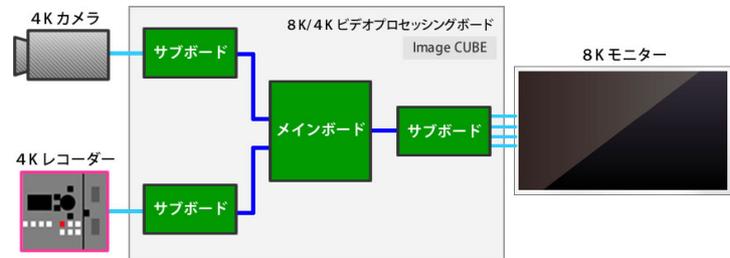
用途別売上構成(15Q3累計)



※ ODM(Original Design Manufacturing): 発注元企業のブランドで販売される製品を設計するだけでなく、製造も行うこと

【自社製品】8K/4Kビデオプロセッシングボード 「Image CUBE」を開発、販売

- 柔軟に8K映像処理を実現するビデオプロセッシングボードを開発
 - FPGAメインボードと物理インターフェースのサブボードで構成
 - ニーズに合わせてボードの組み合わせにより、様々な映像インターフェースとの接続が可能で、多様な映像処理を実現
 - 2015年11月より販売開始



- 活用事例
 - 4K映像から8K映像へのアップコンバート
 - 8K映像に文字情報や他の映像を合成

4Kから8Kのアップコンバート



8Kの画像合成



FY2015 Q3 Results Reporting

2015年国際放送機器展に出展

Inter BEE
International Broadcast Equipment Exhibition

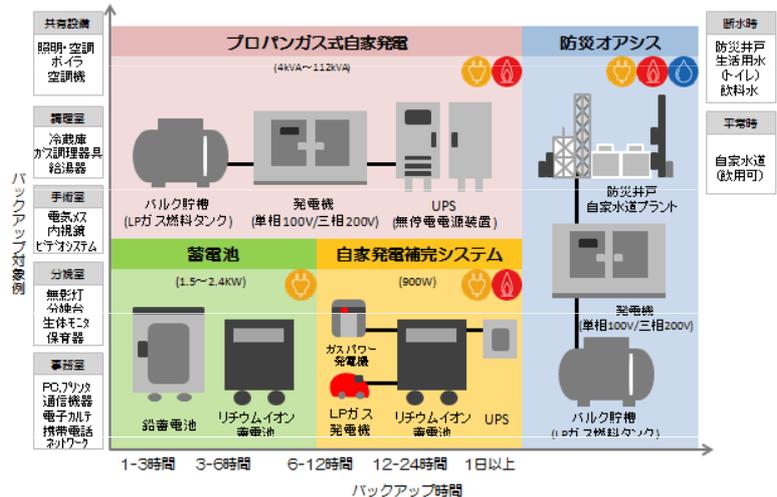
- 2015年国際放送機器展(Inter BEE 2015)に出展
 - 開催日 : 2015年11月18日(水)~11月20日(金)
 - 場所 : 幕張メッセ (ブース:ICT/クロスメディア部門 /ホール6 /6203)
- 主な展示品目
 - 8K/4Kビデオプロセッシングボード「Image CUBE」
 - 4K映像にテロップ画像を合成し、4K映像から8K映像にアップコンバートするデモを実施
 - H.264 IP蓄積伝送装置
 - 火山噴火や地震、河川氾濫等の自然災害の緊急時の映像データを即時に伝送、再生する装置を展示
マルチセッション通信機能や、時刻情報トリガー電文機能による映像伝送を実演
 - H.265/HEVC リアルタイム映像伝送装置
 - 最新のコーデック規格によるH.265/HEVCリアルタイムの映像伝送を実演

■ 事業の方向性

- スマートエネルギーソリューションの開拓・販売を通じて、エネルギー面からの持続可能な社会構築に貢献する

■ 戦略

- 長時間(72時間以上)提供可能な病院向け停電対策システムの構築および販売
- ニーズに基づいた新製品ソリューションの構築



■ サカタ産婦人科（愛媛県）

- 導入の背景
 - 昨年夏に高圧線の事故で停電が発生した際、発生直後は電力会社に問い合わせても復旧時間が不明とのことで、外来患者様に帰宅いただいた
 - もし分娩中であればと想像すると不安が大きく、蓄電池の導入を検討
- 導入結果
 - 停電時にもオペ室・LDRの無影灯・状態モニター・分娩台などが1日24時間使用可能に
 - 生産性向上設備投資促進税制の活用により即時一括償、平成26年度補正予算定置用リチウムイオン蓄電池導入支援事業費補助金を活用



照明学会 平成25年照明普及賞受賞



蓄電池システム

参 考 資 料

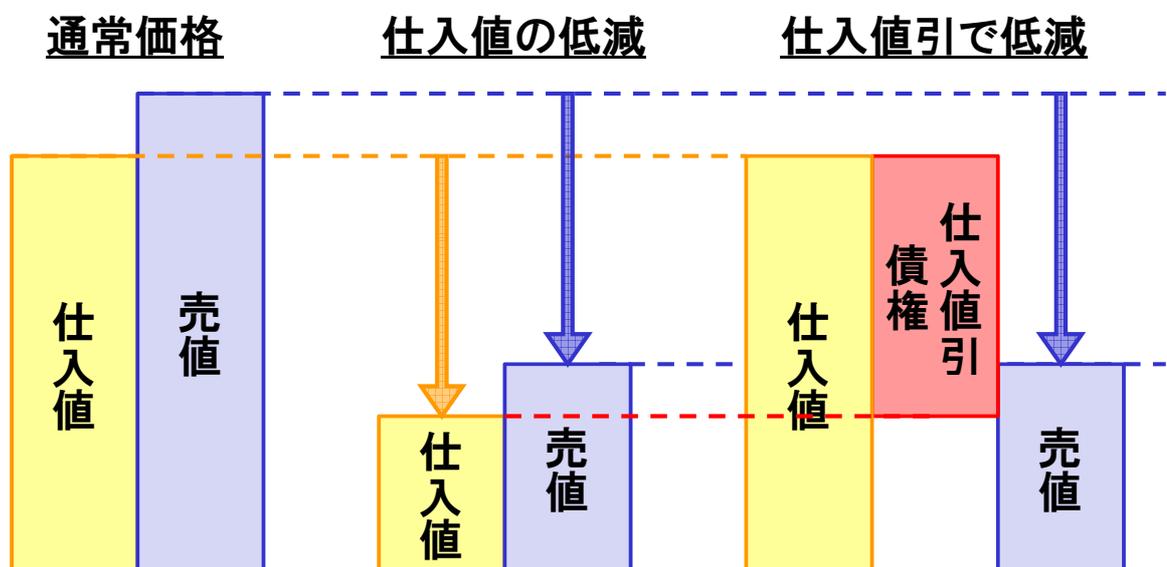


2015年12月期 製品別業績予想

(百万円)	2014年12月期 実績			2015年12月期 業績予想 (8/5時点)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
半導体	11,009	10,889	21,898	12,524	13,325	25,850
FPGA	4,268	4,473	8,741	5,334	6,665	12,000
特定用途IC	3,347	3,142	6,490	3,217	3,082	6,300
汎用IC	1,589	1,484	3,074	1,850	1,499	3,350
アナログ	870	774	1,644	966	1,083	2,050
メモリ	932	1,014	1,947	1,155	994	2,150
デザインサービス	602	515	1,118	704	745	1,450
その他	66	73	139	79	120	200
売上高合計	11,677	11,478	23,155	13,308	14,191	27,500
営業利益	418	590	1,008	747	452	1,200

- 仕入値引債権とは
- 仕入値引債権の評価額変動リスク
- 調達在庫のレート変動リスク
- 決済時ドル調達レート変動リスク

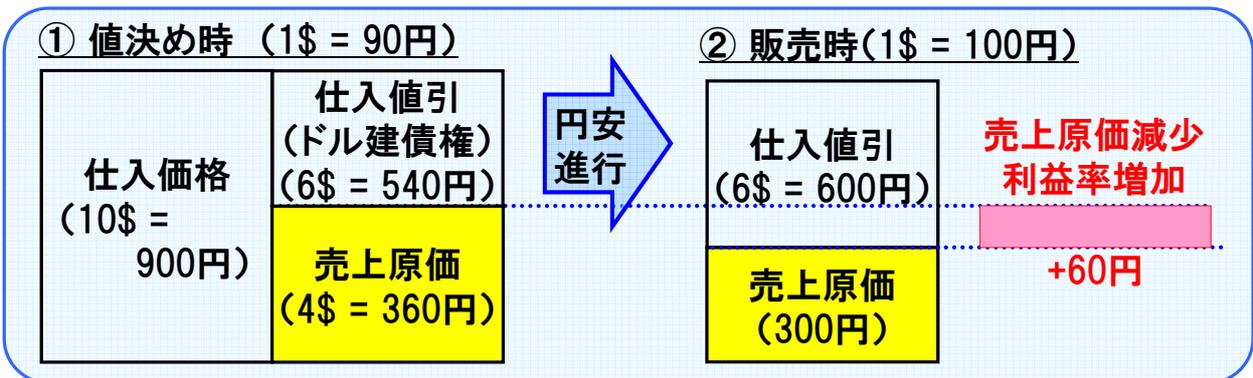
- 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
- その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
- その実現方法には、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」の2パターンがある



仕入値引債権の評価額変動リスク

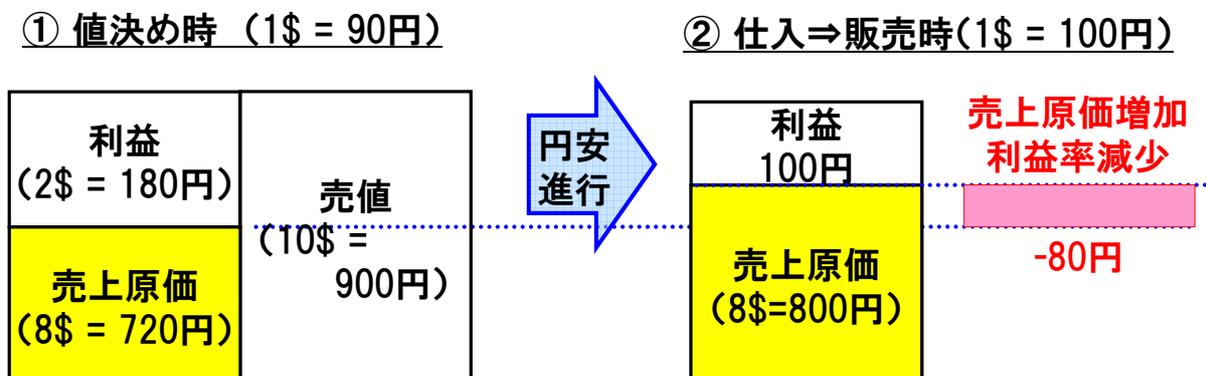
- ① 値決め : 量産案件では、標準仕入価格を下回る特別価格を適用することがある
- ② 販売 : 販売時に仕入値引(ドル建債権)を受け取る。値決め時よりも円安が進行している場合、仕入値引のドル建債権の評価額が増加

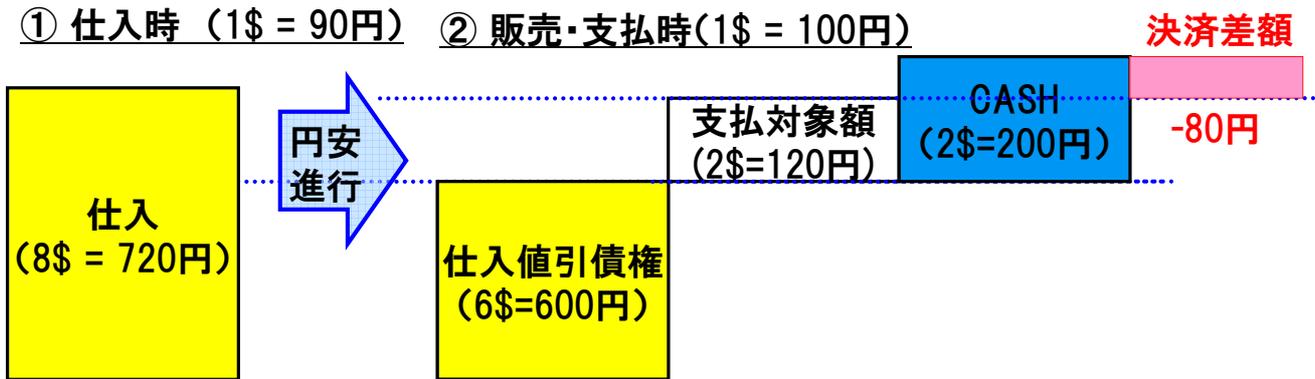
売上原価減少 → 利益率増加



調達在庫のレート変動リスク

売上原価増加 → 利益率減少





開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例:通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ社、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売
その他	上記のカテゴリに属さないソリューション

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

以下の担当までお問い合わせ下さい。

柴崎 由記（総務グループ IR担当）

株式会社PALTEK

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL : 045-477-2016

FAX : 045-477-2012

E-mail : ir@paltek.co.jp